

過剰防衛と子供たちの危機

アメリカのブラウン大学の研究によるとパンデミック以前の10年間は生後3か月から3歳までの子供たちの標準化テストの平均IQ(知能指数)は約100だったのですが、パンデミックから後に生まれ、または成長を体験した子供では、その数値が78にまで下落していることが判りました。研究者によると「主要な認知障害以外では、通常このような数値の低下は見られない」そうです。しかもこのデータはアメリカの比較的裕福な地域の白人の乳幼児のものであり、世界のより貧しい地域では事態はさらに悪化している可能性があると指摘されています。

子供の認知機能は周囲の人々との接触によって発達します。しかし、新型コロナのパンデミックによってその環境が劇的に変化したのです。友達と外で遊ぶことができません。人と触れ合うこともできません。また、マスクで人の表情を学ぶことができません。マスクの装着による酸素不足のため脳の発育が阻害されています。過剰な消毒によって腸内細菌環境が悪化しています。これらのことが組み合わさって知能指数の低下が起こっているのです。

乳幼児たちは生後最初の一年の間に人の顔から多くの情報を学びます。顔の表情を手掛かりにして怒りや悲しみや喜びなどの感情を認識し、言語を覚えていきます。赤ちゃんが人間と社会を学んでいく中で「周囲の人々の顔と表情」が非常に大切であることが指摘されています。

生まれてから一年間、親と家族以外の誰の表情もわからない中で生活した赤ちゃんはどうなるのでしょうか。人の感情を学習する最初の機会を失うのではないのでしょうか。マスクで周囲の誰の表情もわからない世界で現代の赤ちゃんたちは生きています。マスクの装着率から見ると日本はアメリカとは比べ物にならないくらい厳格な社会です。乳幼児に与える影響はアメリカよりもはるかに強いはずで、3歳までの約300万人の乳幼児は人の感情を認識しない冷たいロボット人間になるのでしょうか。家族だけを大切にして、社会や国家の存在を軽視する人々が増えるのでしょうか。マスク社会がいつまで続くのかわかりませんが、私たちはまた困難な問題に直面しています。この傾向は乳幼児だけではなく、成長期のすべての子供たちにも言えることです。

福岡動物自然療法研究会会長 名越譲治

In Deepの記事から引用しました。